2012年11月2日

SIPS MP-TF委員　各位

(株)データ･アプリケーション

藤野裕司

SIPS　メッセージング基盤TF　活動計画　たたき台

1. **目的**
   * 国内企業が海外とのサプライチェーン連携を目指すとき、SIPSのガイドラインに沿ったベンダーのサービスを受けると、海外のどのような企業とも接続することが可能となる永続的環境を構築する。
2. **活動範囲**
   * 海外と接続するための「通信方式」「セキュリティ仕様」「メッセージ変換機能」「VAN/ASP接続仕様」「運用方法」について検討し、それらのガイドラインを策定する。
   * 策定したガイドラインを、どのように普及し運用・メンテナンスを続けるかについても検討し、その体制も構築する。
   * 「ガイドラインは作りました、あとは誰か使ってください」で終わらせない。
   * 本TFでは、メッセージを交換するための基盤について検討を進める。メッセージの中身は問わない。よって、メッセージや業務プロセスの検討は、他のTFに委ねる。
3. **活動方針**
   1. 調査
   * 海外のVAN/ASPベンダーのサービス内容を調査し、どのような仕様を装備すれば接続可能となるかを検討する。
   * 調査は、まずはベンダーを洗いだし、Webで必要とされる内容を洗い出す。
   * 必要に応じて可能な範囲でヒヤリング等も行う。
   1. 検討範囲
   * 検討内容は、欧米各企業と接続可能であることを前提とし、今後日本にとって重要なマーケットであるアジア各国との有効かつ柔軟なネットワーク構築が可能となるガイドラインの策定を目指す。
   * 日本国内とアジア各国およびアジア域内同士が容易に接続可能となるモデルを検討する。
   * 検討範囲としての基本は、インターネット経由のネットワーク。
   * その上で通信を行うための通信プロトコル、セキュリティ確保の方法や認証方法、メッセージ構造を特定するシンタックスやXMLの運用。VAN/ASPを不整合なく接続する仕様、等。
   1. 実証実験の実施
   * 検討した内容に不都合がないかを、国内ベンダー間で実証実験を行い、その結果が確認できたのち、AFACT各国の異なる拠点・ベンダー間での実証を行う。
   1. IOT（InterOperability Test）証明書の発行
   * 実証実験で確認ができたサービスもしくは製品に対して、IOT証明書を発行する
   * これは、第3者機関が発行する認定書ではなく、SIPS内で相互接続試験が完了した証となる
   1. ガイドラインの策定
   * 確認がとれた上で、接続仕様を技術ガイドライン、運用の指針を運用ガイドライン、普及を促進するための指針を活用ガイドラインとして策定する
   1. 運用・メンテナンス方針検討

* 各種ガイドラインに沿って、永続的に運用・メンテナンスする体制を確立する。

1. **中期計画**
   1. 目標

* 海外と接続するための仕様を固め、AFACTでの実証実験を通して日本と海外を結ぶための規格をガイドラインとして公表し、継続的に普及・メンテナンスできる体制を構築する。
* 趣旨に賛同できるベンダーを募り、基盤を構築する。
  1. 実施体制
* 活動を効率よく実施するため目的別に専門部会を設立する。
* 専門部会にて、調査検討・実証実験・ガイドライン策定・運用メンテナンス検討を行う。
  1. 年度別活動内容
* 2012年度～2013年度

Web調査、ヒヤリングにより、海外との接続仕様を確定し、仕様確認のため国内でのベンダー間実証実験を行う。

* 2014年度

アジア域内での相互接続実証を行い、実施企業に証明書を発行する。

* 2015年度～

ガイドラインの策定を進め、メンテナンス体制を構築する。

1. **2012年度活動計画**
   1. 目標

* 海外の主要なVAN/ASPベンダー選定し、提供しているサービス内容やビジネスモデルを調査し、グローバルEDIを実施するために必要な機能を洗い出す。
* すぐに実現すべき基盤（AsIsモデル）と近未来に必要となる基盤（ToBeモデル）の姿を明確にする。
* 活動を効率よく実施するため目的別に専門部会を設立する。具体的計画と作業は専門部会が検討し進める
  1. 調査対象
* 詳細は専門部会で決めるが、調査候補として下記ベンダー等があげられる。

○パッケージベンダー

○サービスベンダー（VAN/ASP）

○SIer

○コンサルタントファーム

［参考］

* + EDS
  + VANCO（イギリス）
  + CSC（ワシントン）
  + ATOS ORIGIN（フランス）
  + GXS
  + E2open
  + Extol
  + Hubspan
  + Liaison Technologies
  + Seeburger
  + その他（EDIに参入したITカンパニー、ネットワークサービスプロバイダー等）
  1. 調査内容
* 詳細は専門部会で決めるが、調査候補として下記等があげられる。
  + ビジネスモデル
  + 仕様技術
  + 利用方法
  + 利用形態
  + 料金

等

* 1. 調査方法
  + Webや文献資料の検索、精査
  + ヒヤリング
  1. 調査結果を分析・整理・検討
* MP-FTでどのような基盤にするか規格を含めて検討する
* 優先順位と実施スケジュールを決める
  1. 実施体制
* 具体的に進めるためには、専門家集団が必要。
* 参加メンバーに呼びかけ、技術者中心の部会を設立する。
  1. スケジュール
* 詳細は専門部会で決める。

以上